

タイトル：「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださらないければ。」

聖書箇所：創世記32:3-29

32:3 ヤコブはセイルの地、エドムの野にいる兄のエサウに、前もって使者を送った。 32:4 そして彼らに命じてこう言った。「あなたがたは私の主人エサウにこう伝えなさい。『あなたのしもべヤコブはこう申しました。私はラバンのもとに寄留し、今までとどまっていました。 32:5 私は牛、ろば、羊、男女の奴隷を持っています。それでご主人にお知らせして、あなたのご好意を得ようと使いを送ったのです。』」 32:6 使者はヤコブのもとに帰って言った。「私たちはあなたの兄上エサウのもとに行って来ました。あの方も、あなたを迎えに四百人を引き連れてやって来られます。」 32:7 そこでヤコブは非常に恐れ、心配した。それで彼はいっしょにいる人々や、羊や牛やらくだを二つの宿営に分けて、 32:8 「たといエサウが来て、一つの宿営を打つても、残りの一つの宿営はのがれられよう」と言った。 32:9 そうしてヤコブは言った。「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ。かつて私に『あなたの生まれ故郷に帰れ。わたしはあなたをしあわせにする』と仰せられた【主】よ。 32:10 私はあなたがしもべに賜ったすべての恵みとまことを受けるに足りない者です。私は自分の杖一本だけを持って、このヨルダンを渡りましたが、今は、二つの宿営を持つようになったのです。 32:11 どうか私の兄、エサウの手から私を救い出してください。彼が来て、私をはじめ母や子どもたちまでも打ちほしなないと、私は彼を恐れているのです。 32:12 あなたはかつて『わたしは必ずあなたをしあわせにし、あなたの子孫を多くて数えきれない海の砂のようにする』と仰せられました。」 32:13 その夜をそこで過ごしてから、彼は手もとの物から兄エサウへの贈り物を選んだ。 32:14 すなわち雌やぎ二百頭、雄やぎ二十頭、雌羊二百頭、雄羊二十頭、 32:15 乳らくだ三十頭とその子、雌牛四十頭、雄牛十頭、雌ろば二十頭、雄ろば十頭。 32:16 彼は、一群れずつをそれぞれしもべたちの手に渡し、しもべたちに言った。「私の先に進め。群れと群れとの間には距離をおけ。」 32:17 また先頭の者には次のように命じた。「もし私の兄エサウがあなたに会い、『あなたはだれのものか。どこへ行くのか。あなたの前のこれらのものはだれのものか』と言って尋ねたら、 32:18 『あなたのしもべヤコブのものです。私のご主人エサウに贈る贈り物です。彼もまた、私たちのうしろにおります』と答えなければなりません。」 32:19 彼は第二の者にも、第三の者にも、また群れ群れについて行くすべての者にも命じて言った。「あなたがたがエサウに出会ったときには、これと同じことを告げ、 32:20 そしてまた、『あなたのしもべヤコブは、私たちのうしろにおります』と言え。」 ヤコブは、私より先に行く贈り物によって彼をなだめ、そうして後、彼の顔を見よう。もしや、彼は私を快く受け入れてくれるかもわからない、と思ったからである。 32:21 それで贈り物は彼より先を通過して行き、彼は宿営地でその夜を過ごした。 32:22 しかし、彼はその夜のうちに起きて、ふたりの妻と、ふたりの女奴隷と、十一人の子どもたちを連れて、ヤボクの渡しを渡った。 32:23 彼らを連れて流れを渡らせ、自分の持ち物も渡らせた。 32:24 ヤコブはひとりだけ、あとに残った。すると、ある人が夜明けまで彼と格闘した。 32:25 ところが、その人は、ヤコブに勝てないのを見てとって、ヤコブのもものつがいを打ったので、その人と格闘しているうちに、ヤコブのもものつがいがはずれた。 32:26 するとその人は言った。「わたしを去らせよ。夜が明けるから。」しかし、ヤコブは答えた。「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださらないければ。」 32:27 その人は言った。「あなたの名は何というのか。」彼は答えた。「ヤコブです。」 32:28 その人は言った。「あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。あなたは神と戦い、人と戦って、勝ったからだ。」 32:29 ヤコブが、「どうかあなたの名を教えてください」と尋ねると、その人は、「いったい、なぜ、あなたはわたしの名を尋ねるのか」と言って、その場で彼を祝福した。

背景

創世記に、イサクという男性が登場します。イサクにはふたりの息子がいます。ヤコブとエサウです。イサクは、ひとりの息子にのみ祝福を与えることができます。その祝福の内容とは、次のようなものでした。

- 国民が伏し拝む
- 兄弟たちの主となる
- 豊かに繁栄する

イサクは、エサウを祝福しようと考えていました。ところが、ヤコブは父親をだまして、その祝福を奪いました。当然ながら、エサウはイサクを恨みました。父親が死んだら弟を殺すと言うほど恨んでいました。

これを聞いた母親はヤコブに、ここを出て、ほとぼりが冷めるまで伯父のもとへ身を隠すようにと言いました。

こうしてヤコブは家から遠く離れた伯父の家に身を寄せました。そして20年が経ちました。

20年の間に、ヤコブは裕福になりました。妻二人にたくさんの子ども、そして家畜にも恵まれました。しかし、ある悩みがありました。故郷に帰るには、兄の住む土地を通り過ぎなくてはならないのです。

32:3-5

ヤコブは使いを送って、「私のことをどうか赦してください。傷めつけないでください」と伝えさせます。

ヤコブはきっと、使いが帰ってくるのを待つ間、不安でいっぱいだったでしょう。

32:6

お兄さんが400人を引き連れて来るのです。

私は中学生の時、4人の男子に殴られそうになり、とても怖い思いをしました。一方、ヤコブのものには400人の男が来るのです。

きっと自分だけではなく家族も皆殺しにされてしまうと思ったでしょう。エサウが自分のところにやってきて、ひとり残らず殺した後で、最後に自分が殺されるのだと思ったのではないのでしょうか。もう手遅れです。彼らはやってくるのです。

V7-8 「ヤコブは非常に恐れ、心配した。」

単に、「恐れ」ではなく、「非常に恐れ」とあります。

私は以前、ピットブルテリアという犬とにらみ合いになったことがあります。ピットブルテリアは、とても凶暴な犬種です。噛みつくと、決して放しません。ヤコブのように、私も非常に恐れしました。

ヤコブはある計画を立てます。エサウがひとつのグループを攻撃しても、もう一方のグループが逃げればよいと考えました。

ヤコブは祈り始めます。

9-11節

ヤコブは、エサウが自分と妻や子どもたちを襲うのではないかと恐れている、と言います。

13-21節

ヤコブは全員をふたつのグループに分け、豪華な贈り物を贈ります。贈り物には、人の心をなだめる効果があります。

ずいぶん前になりますが、私の同僚でいつも怒っている女性がいました。誰かが話しかけただけで怒るのです。この女性が退職する日、私はこの人をなだめようと思って、プレゼントを渡しました。効果は抜群でした。

ヤコブも、たくさんの贈り物がエサウの心をなだめてくれることを願っていました。

22-23節

ヤコブは全員を先に行かせ、自分は最後に残ります。ひとりで残った彼に、何が起こったでしょう。

24節

ある人がヤコブと格闘します。聖書には、ヤコブがその人と格闘した、とは書いてありません。ある人がヤコブと格闘した、とあります。この人がその格闘をしかけたのです。ふたりは夜明けまで格闘しました。

私は高校生の時、レスリング部に入っていました。私の兄もレスリングをしていました。私たち兄弟は、幼いときから格闘技が大好きで、プロレスやハルク・ホーガンなどのプロレスラーも好きでした。たいていの子どもは、少し戦うともう十分なようですが、私たち兄弟は一日中レスリングをしたものです。私たちの部屋はめっちゃくちゃでした。

私は、ボクシングなどの格闘技を観戦するのが大好きです。イエスがヤコブと一晩中格闘するのを見られるものなら見たかったです。どんな技をかけたのでしょうか。ヘッドロックでしょうか。きっとずいぶん激しい戦いだったでしょう。

25節

ヤコブはよほどよい戦いぶりだったのでしょうか。イエスはヤコブのもものつがいはずさなければなりませんでした。

もものつがいがはずれたら、ものすごい痛みには違いありません。私は高校生の時にレスリングの試合で靭帯を損傷したことがあります。靭帯が損傷した瞬間に、私は対戦相手から手を放しました。けれども、ヤコブは手を放しません。

26節

ヤコブはイエスの足首にしがみついていたのでしょうか。

ヤコブは、「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださらないければ。」と言いました。

あなたが去ってしまったら、私たちは死ぬ、と言っているのです。

イエスの祝福がどうしても欲しかったのです。

ヤコブは自分も家族も命の危機にさらされていました。だから、あきらめませんでした。

ヤコブはまるで、こう言っているようです。「私にあなたの守りをください。守りが必要なのです。それをいただくまであきらめません。もものつがいはずされても、あなたの祝福を得るまでは、あなたを放しません」

なんと強い願いでしょう。

これを読むと、私が神にささげる祈りがどれほど弱々しいかと思わされます。祈っていてもあきらめてしまうことがよくあります。

27-28節

「あなたは神と戦い、・・・勝ったからだ。」とイエスはおっしゃいます。

これはどういう意味でしょう。神がヤコブと格闘するためにやってこられたのは、その祝福をヤコブがどれほど望んでいるのか試すためではないかと思えます。

私は教師です。生徒にシールをあげたりしますが、もうひとつほしいと生徒が言うことがあります。私は、もしほしかったら、頑張って授業の最後の質問にぜんぶ答えられたら、とか、頑張って英語だけで話したら、もうひとつシールをあげる、と言います。ほとんどの子は、「できない!」と言いますが、やる気がないだけだと思います。

中には、もうひとつシールをもらおうと、一生懸命頑張る子もいます。そうしてもらったシールをととても大切にします。

29節

神がヤコブを祝福されます。

ヤコブは祝福を受けました。もものつがいは外れていますが、祝福は得ました。

次の章を読むと、すべてがうまくいったことがわかります。

この話は私たちにとってどのような意味があるでしょう。

神が私たちのところに来て、体の格闘をなさるのでしょうか。きっと違うでしょう。おそらく、祈りの中で私たちと格闘したいと願っておられるのではないのでしょうか。

私には、祈祷課題がいくつかあります。

簡単な祈りをするとすぐに答えられる祈りもあります。

何かについて祈ると、神が続けて祈るよう示しておられると感じるときがあります。けれども、祈る気になれなかったり、祈り続けなかったりします。お腹がすいたとか、Eメールを読みたいとか、ニュース番組を見たいとか思うのです。けれども神は、祈り続けなさい、祈りの中で戦いなさいとおっしゃいます。

祈りながら寝てしまうこともあります。

どれくらい真剣に祈りの内容を望んでいるのでしょうか。「あなたが祝福してくださるまでは、私はあなたを去らせません。あきらめません」と私が祈りの中で言うのを、神は望んでおられるのではないのでしょうか。

何かについて祈っていて、まったく応えられないと感じたり、状況が祈っているのとは反対の方向に進んでいるように思えたりしても、「あなたが祝福してくださるまでは、私はあなたを去らせません。あきらめません」と私たちが言うのを神は望まれます。

最近私は、祈っていたことをあきらめて、答えられなかった祈りとして片付けてしまいました。

心の中では、神が「あきらめるな」と言っておられるように感じていました。

正直なところ、祈れば祈るほど、状況が悪くなると感じたことがあります。祈れば祈るほど、神がその反対のことをなさるように思えました。

数ヶ月前、私はあることについて祈っていました。けれども、祈れば祈るほど、状況が悪化するようでした。私は妻に、もうあのことについて祈るのはやめる、と言いました。私の祈りが悪影響を及ぼしているように思えたからです。私はあきらめて、祈るのをやめました。数週間、そのことについて祈ろうとしませんでした。けれども、神はまた祈り続けるように励ましてくださいました。

1984年、女子マラソン選手が最終のトラック周回で倒れそうになっていました。観衆が大声援を送る中、この選手はふらふらになりながらゴールを目指し、ついに完走しました。

祈りをあきらめないでください。神は去年、祈りを書き出して記録するように私に示してくださいました。私は、祈祷課題をひとつひとつ書き出します。皆さんにもそうするようお勧めします。たくさんの祈りが答えられ、リストから外れていくのを私はこの目で見ました。一方、まったく応えられないと感じる祈りもあります。これらについては、神が、「祈りの中で戦いなさい。あきらめてはいけない」と語っておられるように感じます。

「あなたが祝福してくださるまでは、私はあなたを去らせません」と私たちが言うのを、神は待っておられます。